

NEWS LETTER

発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンターりた、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
会議運営・協働支援モデルの取り組みを紹介します。

点が線でつながらない組織をどうするか

b y 中央包括（梅園学区）

【目的&ねらい】協議体形成のため、情報や課題を共有することで学区に横のつながりを作ることを目指す。各町の取り組みを互いに意識してもらいながら、見守り体制や通いの場作りにつないでいきたい。

【活動報告】

9月12日：民児協へ高齢者支援について、地域で今やれていることや困っていることの活動アンケートを実施した。

9月20日：学福全体会で高齢者の居場所づくりについて提案した。

9月26日：梅園協議会にて梅園新聞作成に向けた話し合いを予定。

・**計画**／学区が広く全体の足並みを揃える事は難しいので、総代会長のいる第4分団をモデルとして、有志で高齢者について話し合う機会を作る。

・**キーパーソン**／総代会長、学区福祉委員長、梅園協議会長、民生委員会長

・**成果**／地域密着型事業所の運営推進会議などいろんなところで情報提供をしたことで、他の分団のところからサロンの相談があった。

・**課題**／住民と地域包括ケアについての理解を共有すること。個人情報について正しい理解を広げていくこと。第4分団モデルをどの様に進めていくか。

【助言】地域の多様な団体のネットワーク化も進めていくと良い。

【概況】学区が広く、幹線道路が通り、町内ごとの年齢構成割合や生活課題が異なる。高齢化率が40%を超え、ケアが必要な古いまちを担い手が不在で、若いまちの方が活動を起こしやすい状況。地域差ゆえに全体での身動きが取りづらく、各団体のつながりや相互の理解が必要だと見受けられる。

今回のキモ！

中央地域包括支援センター
キャラクターの「うめっちゃん」です！



敬老会でのチラシ配布やサロンでの声掛けなど地域に足を運ぶことで、包括の存在感が増している？職員が真摯に働きかけることや行動することが広報にもなり成果を生んでいる。

市営住宅と公園と空き家活用の取り組みをつなぎたい

b y 北部包括（岩津学区）

【目的&ねらい】市営住宅、空き家、公園活用という異なる課題に対して、関係者をつなぐことで、新たなネットワークとコミュニティ拠点作りを目指す。

今回のキモ！



【活動報告】

・**岩津北公園プロジェクト**：9月7～8日に岩津北公園の防災キャンプが開催され、包括は「認知症とその家族のための避難所支援について」の講話をするなどで参加した。8日の朝にラジオ体操を行い一般のかたの参加もあった。主催者も初めての試みだったがCATVミクスで特集・放送されるなど反響があった。

・**いわづハウス**：8月23日に放課後デイの子どもたちが食事を作って提供する「岩津ハウス小町」の第1回が開催された。オムライスや冷やしうどんなど食事の提供や児童の作成した飾り物の販売をするなどした。自己申告するまで食事がなかなか出てこないなどあったが、その雰囲気も楽しんでた。第3土曜日（12：30～14：30）に今後も開催予定。見学できるそう。

・**キーパーソン**／いわづハウスと公園愛護運営会を進めている障がいデイの管理者、市営住宅の民生委員・総代・学区福祉委員

・**成果**／防災キャンプに関わり多機関協働する事で、新たなネットワーク構築ができた。また地域の方の講話があり、活躍できる場や人を知ることができた。

・**課題**／回覧などにより周知活動は行っているが、実際の参加になかなかつながらず、周知方法に課題がある。また一部の担い手の負担が大きく、老人会や商工発展会が積極的に関わってもらえるようにアプローチが必要。

【助言】防災キャンプでは、包括より認知症の方と家族の避難所生活についての話をしてもらえたことが良かった。

書類の作成について、レジュメと参考資料をリンクさせるとよい。レジュメの成果は目的に対する成果を記入し、課題を懸案事項に記入する。

地域との関わりの中で包括支援センターも地域とお互いさまの関係を築いている。コミュニティの一員として課題を共有できる。

◆編集後記◆今年度の半分を経過する6回目の包括ゼミだったこともあり、りたさんより今年度から開始している広報支援中間報告（全体像の説明）がありました。年間第4期までのスケジュールの中で、現在モデル包括のスクエアさん、ふくまどさんは誌面構成（ひな形）の作成に取り組んでいます。次回の包括ゼミでふくまどさんより進捗報告があるので楽しみです。